東三鷹学園

平成３０年度　東三鷹学園の評価・検証　結果報告

検証項目	１　コミュニティ・スクールの運営
目標	１．東三鷹学園スタンダードの充実 ２．サポート隊の充実 ３．ＣＳ委員会の活動ＰＲの推進
取組	１．東三鷹学園スタンダードの活用・充実を図る。取組方法等について熟議を行い、活用方法の改善とともに、次年度の改訂に繋げる。 ２．サポート隊の活動をさらに推進するために、３校の事務局の連携を密にしていく。 ３．広報誌、ＨＰをさらに活用し、発信していく。

成果	課題と改善方策
１　東三鷹学園スタンダードの活用を推進するために、教員・保護者への理解を深める努力をした。CS委員と保護者、CS委員と教員の熟議を実施し、共通認識の上での活用を目指した。また、保護者会ではCS委員による説明が定着し、より分かりやすく説明する工夫をした。 ２　小学校でのサポート隊の活用は、定着しているとともに、サポートに入る保護者・地域の方の延べ人数が微増している。 ３　CSガイド、CSだより（1～3号）、東三鷹学園スタンダード、スタンダードガイドを作成し、保護者・地域に配布し、CS委員会の活動状況や取り組みについて発信した。	１　東三鷹学園スタンダードについての学園・学校評価では、児童・生徒の肯定的な評価が40～70パーセント、保護者のの肯定的評価が30～50パーセントに留まった。学校とCS委員会が協働で、意義を発信するとともに活用方法をさらに工夫・改善をする。一つの方法として毎年の積み重ねが分かるようにしていく。 ２　サポートに入る保護者・地域の方が固定化しつつある。多くの方に協力いただけるように発信していく。また、中学校でのサポート隊事務局を設置するには至っていない。引き続き、中学校の実態に合ったサポート隊の在り方を検討していく。 ３　保護者のCS委員会への理解が十分ではない。今後も粘り強く発信をしていく。熟議、保護者会等を活用してCSの広報活動を実施する。学園のホームページ活用を検討する。

検証項目	２　小・中一貫教育校としての教育活動
目標	１．新学習指導要領の主旨に沿った教育の推進 ２．相互乗り入れ授業の充実 ３．児童・生徒の交流活動の充実
取組	１．新学習指導要領の主旨に沿った授業改善をテーマに、小・中学校の教員の授業研究会を実施して、授業の質的向上を図る。 ２．小・中学校間の相互乗り入れ授業を推進する。（数学・算数、英語、保健体育） ３－１．小・小学校、小・中学校の交流活動を推進して、人間関係を深める。 ３－２．ＴＥＨ（学園生徒会・児童会）の活動を推進し、学園の自治意識を育む。

成果	課題と改善方策
１　学園合同研究として、『学力・人間力・社会力をはぐくむ小・中一貫教育～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり』を研究テーマに、三鷹市小・中一貫カリキュラムを踏まえた授業研究を全教科で実施した。 ２　相互乗り入れ授業はほぼ計画通りに実施できた。小学校から中学校へは数学と英語、中学校から小学校へは体育の授業で行った。小から中への系統的な指導とともに、教員の指導方法の交流に繋がり、授業力向上を図る手段となった。 ３－１　小・小、小・中の交流活動は計画通りに実施でき、児童・生徒、教員に定着している。今年度は、開園10周年記念集会を全児童・生徒で実施し、学園の一員である自覚を高めることができた。 ３－２　挨拶運動や人権を大切にする活動について、3校の児童会・生徒会が定期的に話し合い、実践した。今年度は、開園10周年記念集会や式典で学園を代表して活動することができた。	１　次年度は各教科の学園カリキュラムを作成する。三鷹市小・中一貫カリキュラムに沿った各教科の系統的な指導ができるとともに、学園の児童・生徒の実態に応じた指導ができるカリキュラムにすることが課題である。さらに、学園合同研究において授業実践を通して検証していくことが課題である。 ２　乗り入れ授業に入る教員との打ち合わせをより効果的に実施し、指導の効果を上げることが課題である。次年度は、小学校から中学校へは数学に絞って実施して、効果を上げるようにする。 ３－１　活動は定着しているが、より児童・生徒の人間関係を深めていくための工夫・改善が課題である。そのために、活動一つひとつの効果検証を確実にしていく。 ３－２　児童・生徒の主体的な活動を推進し、学園の自治意識をさらに高めていくことが課題である。そのために、話し合ったことを実践に繋げ活動の幅を広げていく。

検証項目	３　（知）確かな学力
目標	１．基礎学力の向上 ２．教員の指導力の向上 ３．家庭学習の充実
取組	１．確かな学力を一人ひとりに定着するために、個に応じた指導の徹底、ＩＣＴ機器の積極的な活用、補充学習（みたか地域未来塾の活用）、学園としてのコンテスト等を実施する。 ２－１．三鷹市小・中一貫カリキュラムや三鷹「学び」のスタンダードを活用し、授業の質的改善を図る。 ２－２．児童・生徒に２回の授業アンケートを実施し、教員の指導力向上に繋げる。 ３．家庭と協働して、家庭学習を推進する。

成果	課題と改善方策
1. 授業や教室環境、学習規律の徹底を通して、児童・生徒にとって分かりやすい授業が進んでいる。基礎学力の定着をねらいとした、中学校でのJEM（国・英・数）と小学校でのJM（国・数）コンテストが継続的に実施できるようになった。 2.「学びのスタンダード」の継続的な実践により、生徒によるアンケート評価結果を踏まえた授業改善に取り組むことができた。 3.「学園スタンダード」の９年間の共通実践により、、保護者への意識を高めることができた。	1. ICT活用方法の工夫をより進めていく必要がある。研究指定を受けているICT活用の実践を公開し、指導方法の共有化を進め改善を行う。基礎学力の定着をねらいとするモチベーションを高める課題提示の方法やコンテストの問題を見直し精査を行う。 2.「学力や努力が教員から認めれているという有用感」の達成率の改善が必要である。自己有用感を高める言葉がけやデータの示し方など、フィードバックを積極的に改善していく。 3. 発達段階に合わせた活用方法の工夫が必要である。学校と家庭の共通のツールとしての位置づけを明確にし、相互の連携の中で具体的に活用していく。普段からの学習指導場面で、意識づけを行う。

検証項目	４　（徳）　豊かな人間性
目標	１．人権と言葉を大切にした指導の推進 ２．情報モラル教育の推進
取組	１－１．いじめの根絶、体罰０を目指す指導を推進する。 １－２．学園として挨拶運動を推進する。 １－３．学園として規範意識の向上を目指す。 ２．地域・家庭・学校が協働して、情報モラル教育を推進する。

成果	課題と改善方策
1.年間を通した「いじめアンケート調査」による把握が、児童・生徒のいじめの早期発見・防止につなげることができた。また、スクールカウンセラーの活用により、悩みや問題に適切に対応している。 2. 学園共通で取り組むあいさつ運動により、あいさつの積極的な実行を自覚している。 3. 生徒・児童の時間を守る、忘れ物をしない、きまりを守るなどの生活習慣が身につけている。また、相手に応じた言葉づかいをする意識を高く持っている。 4. 情報リテラシーの向上に努めることができた。特にスマートフォンをはじめとするネットによる学習に積極的に取り組んだ。	1. 保護者との連携によるいじめの防止を積極的に進めていく。地域・家庭とより連携をし、指導の充実と取り組みに対する理解を進めていく。 2. 児童・生徒のあいさつの実践による達成感が高いが、保護者の肯定的評価は高くない。学校での取り組み成果の共有とともに、家庭でのあいさつのあり方にもより意識を持ち協力して行う必要がる。 3.「学園スタンダード」を共通のツールとした積極的な活用をしていく。 4. SNS 等の変化を常に把握できるように、積極的に情報収集に努めていく。

検証項目	５　（体）　健康・体力
目標	１．体力の向上 ２．地域貢献する力を育む。
取組	１．９年間を見通した体力づくりを推進する。 ２．地域行事のボランティア活動等を通して、児童・生徒の心と体の健康づくりを推進する。

成果	課題と改善方策
１．体力テストの結果から、学園・学校の課題を集約し、解決に向けた方策をたてることができた。 ２．中学校から小学校への乗り入れ指導を体育で実施し、専門的な技能の定着を図ることができた。 ３．小学校では地域行事への参加、中学校では地域の催事・行事や小学校の行事にボランティアとして参加し、人の為に奉仕し感謝されること等で、自己有用感をもたせることができた。	１．特に体の柔軟性と投能力において課題があることから、柔軟性を高める運動を授業体育において継続して取り組む計画をたてたり、日常的に投げる遊びを推進したりする計画等を学園内で持ち寄り、９年間を見通した体力づくり活動・学習を実施する。長期休業中の家庭での体力アップトレーニングを提案し、日常的に体力アップや柔軟性を高めるためのストレッチ運動の提唱事例を学園内で共有する。 ２．次年度も継続する。 ３．次年度も継続する。

検証項目	６　特色ある教育活動
目標	１．キャリア・アントレ教育を推進する。 ２．教員間、学校間の円滑な交流を推進する。
取組	１．各校の特色を生かしつつ、実態に応じたキャリア・アントレ教育を小・中学校で実施する。 ２．委員会ごとに、学園のマニュフェストの実現のために具体的な取組を進める。

成果	課題と改善方策
1. 農業体験や特産品の仕入れ・販売活動、地域・保護者の方との協働授業等、地域の特性と3校の特色を生かして、キャリア・アントレプレナーシップ教育を推進した。 2. 学園会議や学校運営会議を定期的に開催し、マニフェストの実現に向けて、3校の教員が共通の認識をもつことで意識を高めていった。そして、小中一貫コーディネータを中心とし教育課程の推進に努めることが、6委員会の具体的な教育活動に繋がった。	1. 3校の取り組みの情報を交換し教育活動に生かす。また新学習指導要領のねらいであり本学園の研究主題である児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現のための授業改善に向けて9年間を見通した教育計画の作成が必要である。 2. マニフェスト実現に向けて、学園全教員が共通の認識のもとで推進する。そのために、学園会議・各委員会組織を機能的に活用し、各校の活動を具体的な取り組みに繋げる。

検証項目	7　学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革
目標	1．教職員のライフ・ワークバランスを推進する。
取組	1．校務改善や教職員の意識改革を図りながら、３校の実態に応じた働き方改革を推進する。

成果	課題と改善方策
1　各校の校務改善に向けての主な取組は次の通りである。 ・無保障の時間外勤務、休日勤務を減少させる。 ・週1回のノー残業デイを実施する。 ・会議の効率化を実施する。（毎日だった職員夕会を週2回にする。） いろいろな取組を通して、職員のライフ・ワークバランスを推進しようとする意識は、少しずつではあるが高まっている。	1　各校での取組は実践され、多少は教職員の在校時間は減ってているが、教員の時間外での仕事は多い状態である。各校の取組を情報交換しアイディアを出し合いながら、校務改善を進める。また、教職員のライフ・ワークバランスの意識もさらに高めていく。 1　CS委員会とも連携して、地域人財を活用した教育活動を推進する。

平成 30 年度　東三鷹学園の評価・検証結果のまとめ

（1）から（7）の検証結果を踏まえて

1	「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	○小・小の交流、小・中の交流活動は定着し、学園の児童・生徒の人間関係を深めることができた。学園合同研究会や乗り入れ授業は学園の授業力の向上に繋がる機会となるとともに、教職員の連携強化となった。学園開園10周年記念事業を実施し、学園の一体感を高める機会となった。 ○TEH（東三鷹学園児童会・生徒会）が中心に学園全体で挨拶運動を実施し、多くの児童・生徒が積極的に挨拶を実行しようとする自覚がもてている。 ○農業体験、学校農園活動、特産物の仕入れ販売活動等、地域・保護者の方と協働でキャリアアントレ教育を実践するとともに、主体的な学びや多くの人と関わる経験をすることができた。 ○東三鷹学園スタンダードの理解や活用を推進するために、CS委員と保護者、CS委員と教員の熟議を行った。また、保護者会でのCS委員からの説明が定着し、保護者への発信のよい機会となった。
2	今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	○三鷹市小・中一貫カリキュラムに沿った系統的な指導を義務教育9年間で実施するとともに、教職員の授業力向上が課題である。 ○東三鷹スタンダードの理解を深め、活用率を上げるための工夫を学園とCS委員会との協働で進めることが課題である。 ○サポート隊の活動の充実を図るとともに、中学校の実態にあったサポート隊の活動を推進する。
3	「2」の重点課題を解決するための改善策
	○学園合同研究会での授業実践を通して、各教科で学園の児童・生徒の実態に応じた東三鷹学園カリキュラムを作成し、義務教育9年間の系統的な指導を目指していく。 ○東三鷹学園スタンダードがより理解されるように発信していくとともに、学園とCS委員会が共同で活用方法を工夫・改善していく。 ○より多く保護者の方や地域の人財を活用してサポート隊の活動ができるように工夫する。中学校でのサポート隊の有用な活動を検討し、実践に繋げる。